

## 長慶寺

大谷派 横浜市栄区中野町

### 長慶寺由緒

鎌倉七太子の1軀であることを伝える長慶寺は、中村山天岳院と号し、もとは大船の玉縄にあった顕密二宗を兼ねた寺院であったと伝えられている。親鸞聖人が北条泰時の願により『一切経』校合の折に、当時の住持である超世も校合に同席しており、聖人に帰依し浄土真宗へ改宗したという。

中興開基を実好普古といい、普古は石山の合戦に太子像を背負い馳せ参じたという。合戦後帰国してみると、念仏弾圧を掲げる小田原の北条氏による焼き討ちに遭い焼失していた。そのため玉縄の地から現在地に草庵を移した。

その後荒廃におよんでいた慶長の初め、たまたま徳川家康は放鷹の途次、当庵に休息した際に、普古と会い当寺の廃朽の旨を聞かれ、住持を藤沢御殿に召し、再建資として金子若干を下賜され、これが縁で復興が成ったという。

本尊阿弥陀如来像は運慶作と伝えられている。『新編相模国風土記稿』には親鸞聖人御筆の「九字名号」を当寺の什物として伝えてあるが、焼失してしまっている。



長慶寺

### 聖徳太子像

聖徳太子像は鎌倉七太子のひとつで親鸞聖人自作と伝わる。焼失のため現存しない。『長慶寺由緒書』には『一切経』が日本に伝わったのは聖徳太子のおかげで、日本に仏教を伝えていただいたことのご恩を末世まで忘れさせないために、太子の尊像を彫ったとあり、七軀のうち、一番初めに彫られた1軀を当寺に移したとの記述がある。

